



心こそ大切

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

(ユネスコ憲章前文より)

第12回

ユネスコ活動奨励賞

国際協力などの3校7団体決まる

「創意性」や「効果」「継続性」、さらには「期待度」などを評価

広島ユネスコ協会の第十二

回「広島ユネスコ活動奨励賞」の受賞者が決まりました。

今年度も国際理解や協力、交流促進に優れた学校部門3校と社会部門7団体が選ばれま

した。(別記)

の基準である活動の「創意性」や「効果」「継続性」「ポ

同活動奨励賞の選考委員会

(委員長・中山修一広島大学

ランティア度)「発展性」(今

名譽教授、前日本ユネスコ国

後への期待度)などの視点か

ら、活発に意見が交わされ、

と社会部門7団体が選ばれま

広島市内で開かれ、選考項目

厳正かつ慎重に評価が行われ

学校部門

広島市立庚午小学校

ニュージーランド校とのテレビ会議で交流

広島市立美鈴が丘高等学校

体操服などの寄贈を通じ国際交流

広島市立大学「ねっこ広島」

環境問題に関するイベントで地域貢献

社会部門

特定非営利活動法人 日本ケニア協会

ケニアとの文化交流や国際協力推進

特定非営利活動法人 ピースビルダーズ

ルワンダの映画上映やフェアトレード

実施

牛田日本語教室

外国人の日本語学習や生活体験を支援

ひろしま生きた自然博物館

自然に恵まれた元宇品地区の環境を保全

NHK広島児童合唱団

海外での合唱公演を通じ国際交流

特定非営利活動法人 モーストの会

イランなどの被災民や難民を医療支援

広島県立観音高等学校 音楽部OB合唱団

レクイエム「碑」を歌い続け、平和を願う



厳正な審査が行われた選考委員会(11・18)

中山委員長の話

今年度は、学校部門に中学校の候補がなかったことが惜しまれた。また、社会部門は、いずれもレベルが大変高い活動が多かった。受賞された活動は、平和の文化をつくるというユネスコの精神に合致するだけでなく、平和を希求する広島らしさを発揮した活動が目立った点が印象に残った。

ました。審査の結果、学校と社会部門合わせて十団体が選ばれました。

この賞は一九九八年、広島ユネスコ協会が発足二十五周年記念の独自の顕彰事業として設けたものです。受賞者の表彰式は来年一月三十一日に開かれる新春フェスティバルの席上、合わせて行われる予定となっております。



心と心をつなぐ 平和友好の旅

広島ユネスコ協会が

韓国・大邱広域市へ



友好訪問を記念して、大邱協会の皆さんと写真に写る広島協会のメンバー

参加者氏名
(敬称略)

藤井正一(団長)、藤川和康、藤井孝行、國田繁、丹羽岳宏、政岡峰子、山村いさえ、現地で合流 田曾鈴恵、立川喜和子

親善リポート

今回の韓国・大邱広域市の訪問団(広島から七人、現地で二人合流)は、十一月十九日(木)から二十三日(月・祝)までの旅程で、四泊(船中二泊五日となりました。見学コースは八公山、真鑰

(しんちゅう)博物館、歴史的な桐華寺、沙也可(さやか)將軍村などを訪問。歓迎夕食会や答礼夕食会、協会役員・家庭を訪ねての懇談・昼食などを通じて心と心をつなぐ相互理解と厚い友情を深めました。(国際部会長 藤井正一)

桐華寺や沙也可將軍村を見学 食事会や家庭訪問でも交流

【第】 一日目は船中泊。二日目は釜山港到着後、マイタロバスをチャーターして大邱広域市の宿泊ホテルに直行し、UNESCO大邱協会の孫基洙会長、宋承達副会長、吳喆漢副会長、金孝哲副会長、南相杰副会長、



八公山・桐華寺を見学

全命秀理事、柳明姫理事(事務局長)らの心温かい出迎えていただきました。この後、八公山観光へ。ここでは真鑰(方字鑰)博物館を見学後、桐華寺で精進料理の昼食をいただき、安全テーマ博物館を体験見学しました。同市では二〇〇二年、地下鉄火災で二百二十人以上の市民が焼死しました。そのような火災になつた時、いかに犠牲者を少なくするかの訓練を体験しました。夜の歓迎夕食会(大邱協会主催)は韓国定食の立派な食堂で歓迎を受け、両側の参加者紹介、姉妹協会の交流経過報告、孫会長の歓迎の挨拶、

北川建次広島ユネスコ協会会長のメッセージ披露、徐千済前会長から激励辞(交流の思い出)がありました。記念品交換では広島から男性の着物一式と味噌汁セット、タオルと絵葉書、大邱から韓国服(男性用)と海苔の交換が行われました。宴の途中、山村いさえ団員が、衣装をまとい軽妙な音楽に合わせて南京珠すだれを披露され、すだれ橋や柳などの作品に変わる様子に、出席者一同驚く



大邱協会から贈られた男性用韓国服



友好訪問歓迎式

ばかりでした。
その後、日韓カラオケ合戦では両協会の歌手が様々な歌を約二時間熱唱して、大きな盛り上がりの中終了しました。

③ 日目は午前中、沙也可將軍村(鹿洞里)を訪問しました。一五九二年、慶長の役で加藤清正軍の幹部として朝鮮に出兵し、同国に帰化した日本名・沙也可(金忠善將軍)や兵士の子孫が集

まって住んでいる地域です。現在、金將軍十四代目の子孫を中心に集落をつくり生活しておられます。一族から国務大臣も輩出しているそうです。



沙也可將軍村の忠節館で



答礼会でも山村さん活躍

まあって住んでいる地域です。現在、金將軍十四代目の子孫を中心に集落をつくり生活しておられます。一族から国務大臣も輩出しているそうです。

記念館を訪問して、日本と朝鮮の文化や戦争の歴史について学び、二〇一〇年に建設を開始する韓日友好会館に広島ユネスコ協会訪問団として金一封を寄付しました。午後、買い物などで過ごし、夜は答礼夕食会(焼肉料理・広島側が主催)を開催しました。この場では、受け入れに努力していただいた大邱協会へお礼と

感謝の言葉を述べるとともに、広島と大邱協会の参加者全員が、今回の交流事業について率直な意見・感想を述べました。これはお互いをより身近に理解し合う素晴らしい試みで、今後の交流活動に対してヒントを得ました。

大 邱市最終日の四日目は、広島から訪問した七人の団員が四組に分かれ、呉副会長、南副会長、宋副会長、全理事宅を訪問して、韓国の住居や生活ぶりを見学し、お話を聞きできました。言葉があまり通じない訪問活動でしたが、そこは持ち前の「勇気」を振り絞って、漢字や英語まじりのカタコト言葉を使って会話。時間があつという間に過ぎてしまいました。昼食を頂き午後一時、待ち合わせのユニオンホテルへ集合。孫会長らと名残りを惜しみながら、帰途のコース・釜山に向かいました。

スポット

景観は国民の財産

世界遺産は言うに及ばず各地の自然や文化的な地域遺産を継承するうえで課題は遺産を取り巻く景観問題です。

この景観を「国民の財産」と断じた「広島県の鞆の浦埋め立て免許差し止め」判決が、十月一日の広島地裁判決です。

判決内容は、福山市鞆港西側約二ヘクタールを埋め立て、港湾海上をまたぐ約百八十メートルの架橋建設を策定した広島県と福山市の公共事業計画にストップをかけ、埋め立て反対住民側の「景観利

益」(景観を享受する権利)を認める画期的なものです。

鞆の文化・歴史等の価値を挙げれば枚挙にいとまがあり

鞆の浦埋め立て訴訟判決を原爆ドームと旧市民球場跡地利用のヒントに

と旧市民球場跡地利用のヒントに

ません。古代から潮待ち港で、万葉集に詠まれ、遣唐使船が停まり、朝鮮通信使は日本一の景勝と讃え、江戸以来の伝統的な町並みも豊か。雁木、常夜燈、波止、焚場、船番所の歴史的港湾五点セットが揃う港は国内唯一……。

本稿は、鞆埋め立て問題が本旨ではなく、鞆の景観を考へることを通して原爆ドームの景観に関わる旧広島市民球場の跡地を考えるヒントを探ることにあります。

その参考になりそうな記述を鞆埋め立て公判住民原告団の訴状から引用します。

◇鞆の景観要素は港湾施設群を有する港湾と周辺の建造物群が織りなす町並みや山並

「原爆ドームという「主体」の「心象」との関係性を失うことなく球場跡地が担う景観の「要素」を熟慮したい……ものです。

(平和・世界遺産部会)

亀井 章

釜山では国際市場、魚市場を見学して午後六時、国際フェリーに乗船、船中で感想を語り合いました。大邱協会の皆様には、お忙しい中での受け入れ、心から感謝申し上げます。

日本ユネスコ運動 全国大会in横浜

共に生きること学ぼう 多文化との「共生」を問い直す

参加報告記
亀井 章

「わが日の本は島国よ……あらゆる国より舟こそ通え……むかし思えばとま屋の煙、ちらりほらりと立てりしところ……」。森鷗外作詞の横浜市歌の一節。隔世の感の横浜港の沖へ山下公園から砂嘴（さし）のように延びる全面チーク材で覆った丘状で公園風の棧橋を北川建次会長、須山禮吉さん、亀井の広島三人組が長い道のりをボヤキつつ今年開港百五十周年を迎えた港を見返りながら国際客船ターミナルを過ぎ、着いた所が「岬」の突端、全国大会会場の大さん橋ホール。

「あらゆる国へ文こそ通え」 海外へ眼を開かされた2日間

「共に生きる……」国際的な実践活動として日本ユネスコが世界寺子屋運動を推進して今年が二十周年。「多文化との、自然との『共生』を問い直す」がメインテーマ「共に生きることを学ぶ」に次ぐサブテーマ。「多文化共生」のシンポジウムでは韓国オペラ歌手、俳人黛まどか氏、甲南女子大外国人准教授のゲストが、自国の文化の特性と他国の異文化理解への展望を披歴。「模擬国際会議」は日本に留学中のカンボジア、マレーシア、ネパールなど七カ国の学生が「留学生と教育」を討議しました。二日目は寺子屋運動二十周年記念シンポジウム。アフガニスタン

横浜で全国大会 人道平和へ ユネスコの輪を広げよう

ニスタンの寺子屋学習者の「学びと人生」の基調発表に次いで、「寺子屋が果たした役割と今後」のテーマで寺子屋運動まなびゲーター久保純子さん（元NHKアナウンサー）、元日ユ協連事務局長らパネリストらの体験に基づく発言に、書き損じはがき運動がにつながる行き先での多大な効果を再確認。テーマと世界に開く港街・横浜市での大会の故か、海外へ眼を開かされた二日間でした。

ESDやユネスコスクールなどをテーマに中国大会

参加報告記 末重文男

十一月十四、十五の両日、岡山市で中国ブロック・ユネスコ活動研究大会が開かれました。主なポイントを紹介してみました。

『ESD』？
伊東亮三・中国ユネスコ協会会長が挨拶の中で、「ESDと言われなくても何のことやら良く分からん……」などの声を紹介され、田淵敬一氏（文部科学省国際統括官付企画係長）が基調講演で、その内容を分かり易く説明。

『実践例 学校教育』
岡山県立矢掛高等学校が学校設定教科「環境」の経緯を話されました。結果として、持続可能な活動への思考ができ、さらに学習意欲を高める生徒が増え国立大学への進学率も高まった。

『実践例 社会教育』
岡山市京山地区劇団公民館が演劇発表をされました。環境問題をテーマに異年齢の集団活動で成果を上げておられました。

『その他』
「ESDとユネスコ・スクールの推進」をテーマにパネルディスカッション。各協会やカンボジア寺子屋スタッフ、カンボジアでの研修等の報告、また閑谷学校顕彰会事務局長・日笠紘氏の情報提供などもありました。



大会では演劇による事例発表も行われた

大会では演劇による事例発表も行われた。『ESDとユネスコ・スクールの推進』をテーマにパネルディスカッション。各協会やカンボジア寺子屋スタッフ、カンボジアでの研修等の報告、また閑谷学校顕彰会事務局長・日笠紘氏の情報提供などもありました。

国際交流イベント
へあせるへ
2009

市民ボランティアが主体となって行う、国際交流フェスティバル「へあせるへ2009」が、今年も十月二十五日に広島市中区中央公園で開かれました。広場では四十二のテント（ブース）が張られ、民族料理や民芸品をPR。広島ユネスコ協会も、「子どもの伝承遊びコーナー」を設けて参加。たくさん家族と交流を深めました。

折り紙づくり

昔から習い伝えられてきた折り紙は、時代を経た今も根強い人気があります。この日の折り紙コーナーも、次から次へと子どもたちが詰め掛

け、作品作りのアドバイスを受けていました。子どもたちは、ボランティア先生の手際の良さと、出来上がっていく作品の不思議さに、目をぱちくりして見入っていました。

松ぼっくり再利用

野山に落ちている可愛い松ぼっくりを再利用して作ったのがミニ花かご。捨てればごみ、生かせば資源とはよく言った物ですが、松ぼっくり

ミニ凧(たこ)作り

骨となる細長の小さなタケにパラフィン紙を張って作るミニ凧。ほとんどのちびっ子たちにとっては、手作りの作業の現場を直接見るのも、自分で作るのも初めてとあって、興味一杯の様子で教えてもらっていました。凧に目鼻を書き込んだり、尻尾付けしたり、凧揚げしてはしゃぐ子どもたちの笑顔は、大人たちにとくさんの幸せをくれました

ジャンボシャボン玉作り

風にあわりと浮かぶジャンボシャボン玉。自分の顔よりも一回りも二回りも大きなシャボン玉を追っかける子どもたちは大はしゃぎ。

原爆ドームの
景観問題で
世界ユネスコ会長に面会

ユネスコ世界遺産の候補地を審査する国際記念物遺跡会議（ICOMOS）のグスタボ・アローズ会長が、十一月五日、広島市を訪問。原爆慰霊碑に花を捧げられた後、原爆ドーム、平和記念資料館を視察されました。

この間、広島ユネスコ協会（北川建次会長、高橋昭博副会長、亀井章理事）は、原爆ドームの景観を守る会の役員らとともに国際会議場でアローズ会長と会談（日本イコモス会



アローズ会長(中央)に折り鶴のレイを贈る高橋副会長(左)

長・事務局長も同席)。広島側は06年の高層マンション建設による原爆ドーム

の景観問題に触れながら、開発による景観侵害を防ぐ広島市の条例施行の緊急性などを伝えたのに対し、アローズ会長はドームの歴史的な意義と景観保持への強い期待を述べられました。席上、高橋副会長は同夫人が編まれた折り鶴のレイを同会長に贈られました。(写真)



ユネスコ協会のテント前の広場には、ジャンボシャボン玉用の石けん水と、玉作りのための大輪が用意され、訪れた幼児や小学生たちが、パパやママに手伝ってもらいながら挑戦していました。この日はうす曇でしたが、少し風があり、シャボン玉づくりや凧揚げには、ちょうど良い天気でした。





十一月十五日(日)に開催されたこのイベントは、市民団体・企業などが中心と

写真や資料を展示し紹介

「べあせろべ」が中心と

「大邱協会との姉妹協定調印・相互訪問」「ユネスコサロン・現地講座」「平和の鐘を鳴らそう」

「べあせろべ」「杉並青年広島訪問」などの写真・資料を展示して紹介しました。

広島ユネスコ協会は、主催事業を広報する「市民団体活

高校生の国際理解セミナー開催へ

多様な文化を尊重し、地球的視野をもって世界平和のために行動できる青年の育成を願って国際理解セミナーを開催します。

午前はJAIICA海外ボランティア経験者の方から発展途上国の子どもたちの現状を



動紹介の部に参加しました。「新春フェスタ」をはじめ、「大邱協会との姉妹協定調印・相互訪問」「ユネスコサロン・現地講座」「平和の鐘を鳴らそう」

「べあせろべ」

(国際部会)



知り、今、必要とされている支援を考えていきます。

午後は、すべての人に教育

発展途上国の子どもたちの現状を知り、支援の仕方学ぶ

12月23日(祝) 市青少年センターで

の機会を提供し、学習者の自立を目指すユネスコ世界寺子屋運動に参加し、ボランティア活動への一歩を踏み出しま

世界寺子屋運動

世界には、戦争や貧しさなど様々な理由で学校に行けず、読み書きや計算がで

す。多くの高校生の参加をお待ちしています。

日時／十二月二十三日(祝) 十時～十五時

場所／市青少年センター (中区基町五十六十一 写真)

参加費／無料
共催／青少年センター
担当は同センター主事 平賀正子

きない人が約八億人います。そういう人たちに学びの場を提供するとともに、技術訓練や生活上プログラムを実施し、学習者の自立を目指しています。

日誌

8月

8日／ユネスコ活動奨励賞募集要項検討会議 (市民交流プラザ)

15日／平和の鐘を鳴らそう (平和記念公園広場)

9月

23日／百三十九回ユネスコサロン「ヒロシマと被爆電車」講師こども文化科学館館長 加藤一孝 (市民交流プラザ)

10月

5日／広島県教育委員会指導第二課、生涯学習課協議

20日／広報部会(交流プラザ)

25日／べあせろべ (中央公園芝生広場)

11月

6日／ユネスコ活動奨励賞候補推薦委員会 (広島国際学院大学立町 キャンパス)

7～8日／第六十五回ユネスコ運動全国大会(横浜)

14～15日／中国ブロック・ユネスコ活動研究大会(おやかやま (岡山市))

12月

15日／第十四回国際交流・協力の日 (国際会議場)

18日／第十二回広島ユネスコ活動奨励賞選考(審査)委員会 (立町キャンパス)

19～23日／広島ユネスコ協会大邱広域市友好訪問

27日／ユネスコ活動奨励賞表彰文・活動内容紹介文検討会 (市民交流プラザ)

